

大垣市立中川小学校の実践

西濃教育事務所 HP には、次のような資料が掲載されています。

「例えばこんな授業シリーズ【小6英語】」 「例えばこんな単元指導計画【小5英語】」



公開授業(教科部研究会)

公開日	学年(形態)	単元名
6月6日(木)	第2学年(全校研究会)	野菜ショップへ行こう
6月20日(木)	第3学年(全校研究会)	How many? 数であそぼう
7月11日(木)	第4学年(学年部研究会)	What time is it?(Let's Try!2 Unit4)
9月17日(火)	第5学年(学年部研究会)	Who is this? (NEW HORIZON Elementary Unit4)
10月2日(水)	第1学年(全校研究会)	いろいろな あそびに レッツ トライ!
10月17日(木)	第6学年(例えばこんなアレンジ授業)	Where is it from?(NEW HORIZON Elementary Unit5)
11月6日(水)	第6学年(全校研究会)	Where is it from?(NEW HORIZON Elementary Unit5)

「俯瞰」することで、単元学習の成果を実感させる

教科書 NEW HORIZON Elementary の各単元の初めのページには、その単元の主な目標が書かれています。例えば、第6学年「Unit5 Where is it from?」の単元目標の一つに、「自分たちと世界とのつながりを知るために、グループで生産国について発表しよう。」とあります。この「自分たちと世界とのつながりを知る」という部分が、言語活動を行う際の目的となるわけですが、では、どのような指導をすれば、子どもたちが「自分たちは世界とつながっているんだ。」という感覚をもつことができるのでしょうか。

中川小学校では、本単元の学習の際、毎時間、左の写真のように、教室前面に世界地図を、側面に日本地図を掲示しました。そして、授業の中で、ペーコン、レタス、Tシャツなどが出てきたら、その産地や生産国を確認するとともに、教師は地図に目線を向けながら「Where is ...?」と尋ねました。子どもたちは、地図上のどこに、その国や都道府県があるのかを確認するわけです。位置が分かったら、その国や都道府県の上に、付箋を貼っていきました。単元の初めには、数枚の付箋でも、単元末になると何十枚も地図に貼られました。

【写真】教室に掲げられた世界地図と日本地図

子どもたちは、「文房具グループ」、「お菓子グループ」、「宝石グループ」など、自己決定したテーマについて、その産地や生産国を調べ、発表の準備をしました。単元の終末には、グループごとに、身の回りにあるものの産地や生産国などについて発表し、紹介したものの写真を、教室前面や側面に掲示されている世界地図や日本地図に付箋のように貼っていきました。

単元終末、俯瞰して地図を見たとき、何十枚と貼られた写真の多さが、「身の回りにあるものは、こんなにたくさんの国(都道府県)とつながっているんだ。」という実感に至らせるのです。このとき、「自分たちと世界とのつながりを知る」瞬間になります。



【写真】児童が発表した身の回りのものの写真が貼られた世界地図

ここが「中川小らしさ」!

これまでの研究の歩みに満足せず、不断の工夫改善!

中川小学校では、学習指導要領、学習評価の参考資料、教科書等を基に授業改善を積み重ね、今、外国語教育で求められていることを理解しようとされています。互いに授業を見合い、切磋琢磨されている職員集団に敬服します。

単元で使用する資料をクラウドにアップし、児童がいつでも見られるようにする

【授業者が、単元の第1時に児童に配布した「単元学習計画」の一部】

英語 Unit 4 「Who is this?」 単元学習計画			
「この単元は、こう進む」カード			
単元の目標	お互いの意外な一面を見つけるために、身近な人のできることや性格などについて、聞き取ったり、相手に伝えたりすることができる。		
聞くこと	何が得意な人になれるか? 家族や性格などの言い方や「Who is this?」の答え方について分かっている。	どう考えてどう表現したらよい? 相手の意外な一面を見つけるために、その人との関係や性格などの情報を聞き取っている。	主体的に取り組んでいるか? 相手の意外な一面を見つけるために、その人との関係や性格などの情報を聞き取ろうとしている。
話すこと 「発表」	家族や性格などの言い方や身近な人の紹介の仕方について	自分のことをよく知ってもらうために、その人との関係や性格などの	自分のことをよく知ってもらうために、その人との関係や性格などの
予定	知識及び技能	評価 思考・判断・表現 態度	授業の内容
9/10			ソフィアの家で、どんなことを、どの順番でしているのか聞き取る。
9/12			ソフィアのお父さんは、どんな人か聞き取る。 また、自分の身近な人について、知っていることを伝え合う。
9/17			ソフィアの身近な人ができることを聞き取る。 自分の知っている人で、同じような人のことを伝え合う。
9/19	○		お互いに知っている人のことについてクイズを出し合い、それが誰か当てる。

単元の目標、単元の評価規準も明記して、児童に提示します。そして、この単元の「頑張りどころ」を共通理解します。

児童が主体的に学習に取り組めるように、授業におけるワンポイントアドバイスを記載されています。

二次元コードを読み取ると、クラウドにアップされたワークシートをダウンロードできます。児童は、家で資料を見たり、次の授業の準備をしたりすることができます。

【ここが Point!】

たくさん事例を含んだ全体像を見せながら、単元目標を実感させる方法は、別の単元でも有効です。例えば、第6学年 Unit6には、「生き物への理解を深めるために、身近でできることを発表し合おう。」という目標が設定されています。

現在、世界には42,000以上もの絶滅危惧種がいてと言われています。子どもたちは、その中から「仲間が知らなさそうな」絶滅危惧種の生き物を自己選択し、なぜその生き物が絶滅に追いやられているのかを調べ発表します。30人学級で、一人2つの生き物を発表するのであれば、重ならない60種類もの生き物の情報が集まります。互いに発表した後、それら生き物の写真を、絶滅の要因ごとに黒板に貼って整理していきます。

俯瞰して黒板を見たとき、森林伐採、交通事故等、「絶滅の要因は全て、人間が関わっているんだ。」ということに気がきます。このときが、「生き物への理解が深まる」瞬間になるのです。